

分野	専門分野	単位数	1	時間数	20
授業科目	精神看護学概論	学年時期	1年次 後期		
担当講師 (実務経験)	専任教員（看護師：臨床実務経験有）				
科目目標	精神医療・看護の歴史や精神保健医療の動向を学び、精神看護の意義、目的、対象、役割・機能について理解する。				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	精神保健看護の理念、精神保健看護の役割と機能、精神の健康・こころの健康、精神看護の場	講義	専任教員	
2	2	こころとからだのつながり	講義	専任教員	
3	2	こころのしくみと人格の発達、精神の発達課題、各ライフサイクルの精神保健	講義	専任教員	
4	2	こころの危機とストレス、ストレス・コーピング理論	講義	専任教員	
5	2	精神医療・看護の歴史	講義	専任教員	
6	2	精神障害と法制度	講義	専任教員	
7	2	日本の精神医療の現状、社会の変化とメンタルヘルス、障がいの捉え方、自殺対策	講義	専任教員	
8	2	プロセスレコード	講義	専任教員	
9	2		講義	専任教員	
10	2	終了試験	試験	専任教員	
評価方法	終了試験の成績(80点) グループワークへの参加態度、課題の提出（20点） トータル100点満点で評価する。				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1]精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2]精神看護の展開 医学書院				
参考文献	系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院 菱沼典子著：看護につなげる形態機能学 メヂカルフレンド社 高橋清美編著：看護コミュニケーション ヘルス出版 長谷川雅美著：自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード 日総研				
備考	精神看護の基本となる人間理解を目的として、こころとからだのつながり、人格の発達過程、人の心理・行動の特性を理解し、こころの健康や健康な生き方とは何かについて考える。また、精神医療に関わる歴史的背景、人権擁護、法律や制度、現代社会の変化とメンタルヘルスについて学んでいく。				

分野	専門分野	単位数	1	時間数	15
授業科目	精神看護学方法論Ⅰ（精神と健康問題）	学年時期	2年次 前期		
担当講師 (実務経験)	非常勤講師（精神科医師）				
科目目標	精神障害の特徴と主な原因、診断、治療について理解できる。				
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師	
1	2	精神障害の症状と診断	講義	精神科医師	
2	2	統合失調症	講義	精神科医師	
3	2	気分障害	講義	精神科医師	
4	2	神経症性障害	講義	精神科医師	
5	2	アルコール依存症・てんかん	講義	精神科医師	
6	2	発達障害	講義	精神科医師	
7	2	精神科における治療	講義	精神科医師	
8	1	終了試験			
評価方法	終了試験の成績(100点満点)で評価する。				
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1]精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2]精神看護の展開 医学書院				
参考文献					
備考					

分野	専門分野		単位数	1	時間数	30
授業科目	精神看護学方法論Ⅱ（生活障害と看護展開）		学年時期	2年次 後期		
担当講師 (実務経験)	①非常勤講師（精神科病棟看護師：臨床実務経験有）					
	②非常勤講師（精神科病棟看護師：臨床実務経験有）					
科目目標	精神障害を持つ人及び家族への援助に必要な知識、技術について理解できる。					
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師		
1	2	入院治療と看護の展開、入院の意味を理解する	講義	①		
2	2	治療環境をつくる、安全を守る	講義	①		
3	2	緊急事態に対処する	講義	①		
4	2	健康の段階における看護、回復を助ける	講義	①		
5	2	主な精神科治療と看護、共同意思決定、共同創造（コプロダクション）	講義	①		
6	2	抗精神病薬の有害反応、電気けいれん療法の看護	講義	①		
7	2	身体合併症、心的外傷を持つ患者への身体のケア	講義	①		
	1	中間試験	試験			
8	2	生活障害とは、精神障害による生活への影響、身体合併症のある患者の看護	講義	②		
9	2	日常生活行動と精神の健康問題	講義	②		
10	2	（睡眠・食事・清潔・金銭管理・対人関係）	講義	②		
11	2	統合失調症の看護 事例検討	講義	②		
12	2	情報収集・アセスメントの視点	講義	②		
13	2	看護の視点	講義	②		
14	2	災害時のメンタルヘルスと看護、DPAT	講義	②		
	1	終了試験	試験			
評価方法	中間・終了試験の成績(100点満点)で評価する					
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1]精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2]精神看護の展開 医学書院					
参考文献						
備考						

分野	専門分野		単位数	1	時間数	15
授業科目	精神看護学方法論Ⅲ (地域で暮らす精神障害を持つ人の看護)		学年時期	2年次 後期		
担当講師 (実務経験)	専任教員(看護師：臨床実務経験有)					
科目目標	精神障害をもちながら地域で暮らすための社会資源やサービス、看護について理解できる。					
回数	時間	授業内容	授業方法	担当講師		
1	2	地域におけるケアと支援、 精神障害に対応した地域包括ケアシステム	講義	専任教員		
2	2	生活を支えるための社会資源・サービス	GW	専任教員		
3	2					
4	2	地域におけるケアの方法と実際	講義	専任教員		
5	2	学校におけるメンタルヘルスと精神看護 職場におけるメンタルヘルスと精神看護	協同学習	専任教員		
6	2	医療の場におけるメンタルヘルスと看護、リエゾン、 コンサルテーションと連携	講義	専任教員		
7	2	精神障害をもつ人への関わり方と看護	GW	専任教員		
8	1	終了試験	試験	専任教員		
評価方法	終了試験の成績(100点満点)で評価する。					
評価基準	60点以上で合格 60点未満の場合は再試験(1回のみ)					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1]精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2]精神看護の展開 医学書院 精神疾患をもつ人への関わり方に迷ったら開く本 医学書院					
参考文献						
備考	現在の精神保健・医療・福祉において、入院治療にとどまらず、地域での生活を継続できる支援も実践されています。地域生活を支えるための社会資源やサービス、精神障害をもつ人への関わり方と看護について学びます。3年生の精神看護学実習(就労支援事業所、訪問看護等)にもつながる内容です。					